道徳教育観と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連（1）

―教育学部生を対象とした予備的検討―

*越　中　康　治

Relationship between Views of Moral Education, Authoritarian Conservatism and Dark Triad (1): A Pilot Survey for Undergraduate Students of Faculty of Education

ETCHU Koji

要　旨

本研究の目的は，教育学部生の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連について，性差を含めて探索的に検討を行うことであった。予備的な質問紙調査の結果から，大きくわけて以下の３点が確認された。第１に，権威主義的伝統主義傾向の強い者ほど，教育は集団のためであると認識し，道徳教育において価値や美徳を伝えることと行動の習慣化を重視する傾向にあった。第２に，Dark Triad傾向の強い者ほど，道徳は外から与えられるものであり，道徳教育においては価値や美徳を伝えるべきと認識する傾向にあった。ただし，Dark Triadに関しては，権威主義的伝統主義に比して，道徳教育観との関連は明確には示されなかった。第３に，道徳教育観には性差が認められ，女性に比べて男性は，人間の本質は悪であり，道徳は外から与えられるものであり，道徳は社会によって異なると認識するとともに，道徳教育においては価値や美徳を伝えることを重視する傾向にあった。本研究は予備的な検討に過ぎないが，道徳教育観とパーソナリティとの関連については，今後，性差を十分に考慮した上で研究を蓄積していく必要があることが示唆された。

Key words：道徳教育観、権威主義的伝統主義、Dark Triad、教育学部生

Ⅰ．問題と目的

道徳教育についての考え方はCharacter EducationとMoral Reasoning Educationに大別される（Graham, Haidt, & Rimm-Kaufman, 2008）。前者が「子どもが徳の意味を理解し，徳と関連した行為を繰り返し実践できるような場をつくり出し，『習慣化』させることを重視する」（首藤，2009，p.80）のに対し，後者すなわち「PiagetとKohlbergの認知発達論に基づく道徳教育は，大人から子どもへ特定の価値を教え込もうとする方法に反対する立場をとる」（首藤，2009，p.80）。２つのアプローチの違いについて，Graham et al.（2008）は，「道徳性の基盤」（前者では「特性，感情及び行為」，後者では「推論」）や「道徳領域」（後者では「損害と公正のみ」，前者では「忠誠，権威及び神聖などを含む」）についてどう考えるかなどの10の観点から簡潔に二分法でまとめている。本研究では，教育学部生を対象として，こうした道徳教育に対する考え方とパーソナリティとの関連を探索的に検討する。

道徳教育に対する考え方と関連すると予想されるパーソナリティとして，本研究では，第１に権威主義的伝統主義を取り上げる。権威主義的伝統主義は「伝統的権威を中心とした権威のあるひと，ものへの服従と逸脱者への攻撃の態度」（吉川，1998，p.65）である。例えば，教育学部生を対象とした質問紙調査では，権威主義的伝統主義の高い学生は低い学生よりも強制・注入型の道徳指導観を有することが示されている（越中，2012）が，Character EducationやMoral

＊　学校教育講座

Reasoning Education といった考え方との間にはどのような関連が認められるであろうか。

道徳教育に対する考え方と関連すると予想されるパーソナリティとして，本研究では第２に Dark Triad を取り上げる。Dark Triad とは，マキャベリアニズム，サイコパシー傾向及び自己愛傾向の総称であり，これらの３特性は代表的な反社会的パーソナリティとされる（田村・小塩・田中・増井・ジョナソン，2015）。中でもマキャベリアニズムは非道徳性・道徳観の欠如と関連するとされており（下司・小塩，2017; 中村他，2012），本邦でも，利他的な行動の実施頻度を問う向社会的行動尺度や利他的なパーソナリティ次元であるビッグファイブの協調性などと負に相関することが示されている（中村他，2012）。また，マキャベリアニズムとサイコパシーは，道徳アイデンティティ（道徳的自己スキーマが個人の自己定義の中心にあるかを説明する概念）の２側面（内在化と象徴化）のうちの内在化（道徳的自己スキーマの利用可能性の高さをとらえた概念）と負に相関することも示されている（河村他，2017）。こうした道徳性と関連の深いパーソナリティは道徳教育観とどのように関連するのであろうか。

木川（2016）によれば，対人コミュニケーションに影響する個人変数としてのマキャベリアニズムは，そもそも権威主義的パーソナリティの研究の中で，集団の成員に対して影響を与え操作するリーダーの存在から着想を得て，マキャベリが提言したような特性が個人のパーソナリティとして存在すると考えられたことに端を発している。権威主義やマキャベリアニズムは，子どもとのかかわり方にも影響する変数と考えられるが，その多くが教師を目指す教育学部生の道徳教育観との間にはどのような関連が認められるであろうか。

なお，木川（2016）は，マキャベリアニズムは男性の他者操作を支える性質であり，女性が他者を操作する際には別の方法（例えば，他者からケアを引き出そうとする方略）を用いると指摘する研究もあり，性差については議論があるとしている。また，田村他（2015）によれば，Dark Triad の特徴は女性よりも男性の方が顕著に現れることが確認されている一方で，マキャベリアニズムにおける得点の性差に関しては議論が残されている現状にある。これらの指摘を踏まえると，マキャベリアニズム等のパーソナリティと道徳教育観との関連を検討する上では，性差も考慮に入れる必要があるであろう。以上を踏まえ，本研究では，教育学部生の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との関連について，性差を含めて探索的に検討を行うこととする。

Ⅱ．方　法

１．調査対象者及び調査方法

2016年４月に教育学部の３年生176名を対象として質問紙調査を実施した。調査は授業の冒頭で実施し，一斉に配布・回収した。調査は無記名式であり回答は任意であること，授業等の評価とは一切無関係であり質問紙を提出しなくても不利益は生じないことを明記し，口頭でも伝えた。結果として173名から回答を得た。このうち欠損値のあった３名を除く170名（男性66名，女性104名）を分析の対象とした。分析対象者の平均年齢は20.2歳（SD = 0.5, range: 20-24）であった。

２．調査内容

調査内容は以下の通りであった。

(1) 道徳教育観に関する８項目

道徳教育についての２つの考え方（A：Character Education, B：Moral Reasoning Education）を対で８項目（Table１）提示し，自分の考えについて４件法（「４．A に近い」「３．どちらかといえば A に近い」「２．どちらかといえばＢに近い」「１．Ｂに近い」）で回答を求めた。各項目の観点（及び項目対の概要）は，①価値伝達の是非（A：大人から子どもへ価値や美徳を伝えることが大切，B：価値や美徳を教え込むべきではない），②道徳発達（A：大人が正しい行動を習慣化させることが大切，B：何が正しいことかを子ども自身が考えることが大切），③教育の目的（A：集団や社会全体のため，B:個々の子どもたちのため），④人間の本質（A：悪であり，抑制が必要，B：善であり，抑制からの解放が必要），⑤躾・規律の訓練（A:子どもが大きくなってからも常に必要，B:大きくなってからはむしろ有害），⑥道徳的権威（A：外在的であり，道徳は外から与えられる，B：内在的であり，道徳の源泉は子どもの内にある），⑦道徳的文脈（A：道徳は社会の文化や伝統によって異なる，B：社会や文化によらず普遍的である），⑧道徳的成熟（A：さま

ざまな価値や美徳をバランスよく身につけること，B: 既存の慣習やきまりに依存せず，何が公平・公正かを考えられること）であった。なお，①は主に首藤（2009）の定義を参考に，②～⑧は Graham et al.（2008）の10の観点を参考に，比較的簡潔に提示可能でありかつ学生にも理解しやすいと思われる内容を選定して独自に作成した。具体的には，10の観点のうち先述の「道徳性の基盤」と「道徳領域」については扱わないこととし，「道徳的文脈」（A：個別主義，B：普遍主義）については「文脈上のリスク」（A：局所的な道徳的文脈に過度に依存する，B：過度に脱文脈化・抽象化される）の内容も含めるかたちで項目化した。

Table 1　道徳教育観についての 8 項目

	A の考え方 （Character Education）	B の考え方 （Moral Reasoning Education）
①価値伝達の是非	道徳教育においては，大人から子どもへ道徳的価値や美徳をしっかり伝えることが大切である	道徳教育においては，大人から子どもに道徳的価値や美徳を教え込むべきではない
②道徳発達	子どもの道徳性は，大人が正しい行動を習慣化させることによって発達する	子どもの道徳性は，何が正しいことかを子ども自身が考えることによって発達する
③教育の目的	教育は，集団や社会全体のためになされるべきものである	教育は，個々の子どもたちのためになされるべきものである
④人間の本質	人間の本質は悪であり，抑制されなければならない	人間の本質は善であり，抑制から解放されなければならない
⑤躾・規律の訓練	大人によるしつけや規律の訓練は，子どもが大きくなってからも常に必要である	大人によるしつけや規律の訓練は，子どもが大きくなってからはむしろ有害である
⑥道徳的権威	道徳的権威は外在的なものであり，道徳は外から与えられるものである	道徳的権威は内在的なものであり，道徳の源泉は子どもの内にある
⑦道徳的文脈	道徳とは，その社会の文化や伝統によって異なるものである	道徳とは，社会や文化によらず普遍的なものである
⑧道徳的成熟	道徳的な成熟とは，さまざまな道徳的価値や美徳をバランスよく身につけることである	道徳的な成熟とは，既存の慣習やきまりに依存せずに，何が公平・公正かを考えられるようになることである

Graham, Haidt, & Rimm-Kaufman（2008）及び首藤（2009）を参考に著者が作成

(2) 権威主義的伝統主義

敷島他（2008）の「権威主義的伝統主義尺度」5 項目を用い，「6．とてもよくあてはまる」～「1．全くあてはまらない」の 6 件法で回答を求めた。なお，この尺度は，先述の吉川（1998）の定義のうち「逸脱者への攻撃の態度」を必ずしも包含しないものとなっている（敷島他，2008）。

(3) Dark Triad

田村他（2015）の「日本語版 Dark Triad Dirty Dozen（DTDD-J）」（マキャベリアニズム，サイコパシー傾向，自己愛傾向の各 4 項目，計12項目）を用い，「5．非常にあてはまる」～「1．全くあてはまらない」の 5 件法で回答を求めた。

Ⅲ．結果と考察

分析にさきがけて，権威主義的伝統主義尺度 5 項目の合計得点（M=13.04，SD=3.62）の中央値（13点）に基づき，対象者を権威主義的伝統主義高群（13点以上）と低群（13点未満）に群分けした。なお，権威主義的伝統主義に関して，男性（M=12.80, SD=3.65）と女性（M=13.18, SD= 3.61）との間で有意差は認められなかった（t（168）=0.67, $n.s.$）。

1．道徳教育観に関する 8 項目における群間差

道徳教育観に関する 8 項目について，性差と権威主義的伝統主義の高低による差異を検討するために 2 要因分散分析を行った結果を Table 2 に示す。なお，①～⑧の得点は高いほど A の考え方（すなわち Character Education）に近いことを意味している。そ

Table 2　道徳教育観の平均値及び標準偏差と2要因分散分析結果（性別×権威主義的伝統主義）

	男性		女性		*F* 値（自由度）		
	高群	低群	高群	低群	性別	権威主義	交互作用
	(*n*=33)	(*n*=33)	(*n*=55)	(*n*=49)	(1，166)	(1，166)	(1，166)
①価値や美徳を伝えるべき	2.79 (0.77)	2.70 (0.90)	2.71 (0.62)	2.35 (0.82)	3.05† 男＞女	3.40† 高＞低	1.22
②行動を習慣化	2.21 (1.01)	1.73 (0.86)	2.18 (0.92)	1.90 (0.93)	0.23	6.74* 高＞低	0.46
③教育は集団のため	2.18 (0.90)	1.91 (0.83)	2.20 (0.84)	1.94 (0.87)	0.03	3.81† 高＞低	0.00
④人間の本質は悪	2.33 (0.80)	2.85 (1.05)	2.42 (0.87)	2.16 (0.68)	4.96* 男＞女	0.93	8.16**
⑤しつけや訓練が必要	2.27 (0.83)	2.27 (0.83)	2.58 (0.82)	2.20 (0.76)	0.88	2.16	2.16
⑥道徳は外から与えられる	2.12 (0.77)	2.36 (0.95)	1.87 (0.79)	1.84 (0.68)	9.50** 男＞女	0.67	1.22
⑦道徳は社会によって異なる	3.09 (0.79)	3.12 (0.84)	2.80 (0.88)	2.80 (0.83)	5.25 男＞女	0.01	0.02
⑧成熟は美徳を身につけること	2.18 (0.80)	2.15 (0.86)	2.24 (0.80)	2.22 (0.82)	1.59	0.87	0.49

注）**p<.01，*p<.05，†p<.10

のため，これ以降の表の中では，例えば「①価値伝達の是非」（Table 1）であれば「①価値や美徳を伝えるべき」のように，A の考え方の内容を示すこととする。

さて，Table 2 に示された通り，まず，「①価値伝達の是非」「②道徳発達」「③教育の目的」の 3 項目において，権威主義的伝統主義の主効果が認められた。これらの項目については，権威主義的伝統主義の高群ほど A に近く，権威主義的伝統主義傾向の強い者ほど，道徳教育においては「①価値や美徳を伝えるべき」であり，「②行動の習慣化」を重視するとともに「③教育は集団のため」と認識する傾向にあることが示された。

また，「①価値伝達の是非」「④人間の本質」「⑥道徳的権威」「⑦道徳的文脈」の 4 項目においては，性別の主効果が有意であった。これらの項目について，男性は女性に比して A に近く，「①価値や美徳を伝えるべき」「④人間の本質は悪」「⑥道徳は外から与えられる」「⑦道徳は社会によって異なる」と認識する傾向にあることが示された。

ただし，「④人間の本質」に関しては交互作用が有意であり，単純主効果の検定の結果，権威主義的伝統主義低群における性別の効果（F (1,166) =12.92,

Table 3　道徳教育観の各得点間の相関係数

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①価値や美徳を伝えるべき		.16	.32 **	.09	.12	.09	-.09	-.07
②行動を習慣化	.28 **		.09	-.22 †	-.08	-.03	.14	-.11
③教育は集団のため	.22 *	.35 **		.02	-.08	.24 *	-.13	.12
④人間の本質は悪	.23 *	.05	.05		.03	.12	.13	.01
⑤しつけや訓練が必要	.24 *	.09	.07	.01		-.03	-.22 †	-.16
⑥道徳は外から与えられる	.30 **	.11	.09	.25 **	.02		.07	-.06
⑦道徳は社会によって異なる	.23 *	.25 **	.20 *	.00	-.10	.36 **		-.03
⑧成熟は美徳を身につけること	.07	.29 **	.14	-.16	.09	.03	.40 **	

注）右上は男性（n=66），左下は女性（n=104）の結果
**p<.01，*p<.05，†p<.10（両側検定）

p<.01）と男性における権威主義的伝統主義の効果（F（1,166）= 7.30, p<.01）が有意であった。「④人間の本質は悪」という認識は，権威主義的伝統主義低群では女性に比して男性が強い一方で，男性では権威主義的伝統主義高群よりも低群が強い傾向にあった。

2．道徳教育観に関する 8 項目間の相関係数

道徳教育観に関する①～⑧の各項目間の相関係数を Table 3 に示す。なお，Table 3 は，右上が男性の結果，左下が女性の結果である。Table 3 から，女性では多くの項目間で有意な正の相関が示されており，A の考え方は A の考え方，B の考え方は B の考え方で関連し合っていることが窺える。他方，男性では，必ずしもこうした関連は認められず，むしろ，「②道徳発達」と「④人間の本質」の間と，「⑤躾・規律の訓練」と「⑦道徳的文脈」の間では負の相関の有意傾向が認められた。

Table 4　Dark Triad の平均値及び標準偏差と 2 要因分散分析結果（性別×権威主義的伝統主義）

	男性		女性		F 値（自由度）		
	高群	低群	高群	低群	性別	権威主義	交互作用
	（n=33）	（n=33）	（n=55）	（n=49）	（1，166）	（1，166）	（1，166）
Dark Triad	34.33 （5.01）	33.49 （7.01）	32.07 （5.82）	27.98 （6.57）	15.71** 男＞女	6.36* 高＞低	2.74†
マキャベリアニズム	10.82 （2.74）	10.94 （3.13）	9.91 （2.92）	8.57 （2.81）	12.61** 男＞女	1.74	2.50
サイコパシー傾向	9.67 （2.28）	10.30 （3.10）	9.66 （2.58）	8.35 （2.31）	5.81* 男＞女	0.68	5.67*
自己愛傾向	13.85 （3.19）	12.24 （3.38）	12.51 （3.06）	11.06 （3.47）	5.85* 男＞女	8.59** 高＞低	0.02

注）**p<.01，*p<.05，†p<.10

3．Dark Triad の各得点における群間差

DTDD-J の総合得点（Dark Triad）とマキャベリアニズム，サイコパシー傾向及び自己愛傾向の各下位尺度得点について，性差と権威主義的伝統主義の高低による差異を検討するために 2 要因分散分析を行った結果を Table 4 に示す。Table 4 から，まず，性差に関して，総合得点と 3 つの下位尺度得点のすべてについて，女性よりも男性の方が有意に高いことが確認された。先行研究（田村他，2015）では，マキャベリアニズムにおける得点の性差は認められていないが，本研究では異なる結果となった。

また，総合得点と自己愛傾向に関して，権威主義的伝統主義の主効果が有意であり，いずれも低群より高群において得点が高かった。さらに，サイコパシー傾向においては交互作用が有意であり，単純主効果の検定の結果，権威主義的伝統主義低群における性別の効果（F（1,166）=11.48, p<.01）と女性における権威主義的伝統主義の効果（F（1,166）= 5.13, p<.01）が有意であった。サイコパシー傾向の得点は，権威主義的伝統主義低群において女性より男性が有意に高く，女性においては権威主義的伝統主義低群より高群が有意に高かった。

4．権威主義的伝統主義と Dark Triad の相関係数

権威主義的伝統主義（A），Dark Triad の総合得点（D），マキャベリアニズム（M），サイコパシー傾向（P）及び自己愛傾向（N）の各下位尺度得点の相関係数を Table 5 に示す。なお，Table 5 も，右上が男性の結果，左下が女性の結果である。Table 5 から，女性では，権威主義的伝統主義と Dark Triad の総合得点及びすべて各下位尺度得点との間に有意な正の相関が認められたが，男性では，自己愛傾向得点との間にのみ有意な正の相関が認められた。

また，Dark Triad の各得点間の相関について，先行研究（田村他，2015）では，総合得点とすべての下位尺度との間に高い相関関係が認められ，下位尺度間では，マキャベリアニズムがサイコパシー傾向と自己愛傾向の双方に中程度の正の相関を示す一方で，サイコパシー傾向と自己愛傾向との相関は低い値であった。しかし，本研究では，女性の結果は先行研究と同

様であったが，男性に関してはサイコパシー傾向と自己愛傾向において負の値が示されており，先行研究（田村他，2015）とは異なる結果となった。

Table 5　権威主義的伝統主義と Dark Triad との相関係数

	A	D	M	P	N
権威主義的伝統主義（A）		.15	.03	-.05	.30 *
Dark Triad（D）	.35 **		.80 **	.51 **	.70 **
マキャベリアニズム（M）	.26 **	.79 **		.22 †	.39 **
サイコパシー傾向（P）	.27 **	.68 **	.44 **		-.09
自己愛傾向（N）	.24 *	.73 **	.33 **	.18 †	

注）右上は男性（n=66），左下は女性（n=104）の結果
**p<.01，*p<.05，†p<.10（両側検定）

5．道徳教育観とパーソナリティとの関連

対象者である教育学部生全体における道徳教育観と権威主義的伝統主義及び Dark Triad の各得点との相関係数を Table 6 に示す。いずれの相関係数も低い値ではあるが，あくまで参考までに結果を概観すると，相関係数は多くが正の値を示している。特に権威主義的伝統主義得点が高いほど，「①価値や美徳を伝えるべき」と考え，「②行動を習慣化」することを重視し，「③教育は集団のため」「⑤しつけや訓練が必要」「⑧成熟は美徳を身につけること」と認識する傾向にあることが窺える。

また，Dark Triad に関しては，「①価値や美徳を伝えるべき」や「⑥道徳は外から与えられる」という認識との間に正の相関が示された。このうち「①価値や美徳を伝えるべき」に関しては自己愛傾向と，「⑥道徳は外から与えられる」に関してはサイコパシー傾向と正の相関が示された。なお，サイコパシー傾向は「②行動を習慣化」することを重視する傾向とも正の相関を示していた。また，マキャベリアニズムと「①価値や美徳を伝えるべき」「③教育は集団のため」との間にも正の相関の有意傾向が見られた。

ただし，男性（Table 7）と女性（Table 8）のそれぞれで結果を確認すると，男性では，権威主義的伝統主義と「④人間の本質」との間に有意な負の相関が示されている。全体としては，A の考え方（すなわち Character Education）と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との間に正の相関が示される傾向にあるようにも窺えるが，本研究の結果のみからでは一概にそうとも言い切れないであろう。各得点間の関係が男女で異なっていることなども考慮すると，より慎重な考察が求められるものと考えられる。

Table 6　教育学部生（N=170）における道徳教育観と諸尺度との相関係数

	A	D	M	P	N
①価値や美徳を伝えるべき	.22 **	.19 *	.15 †	.00	.23 **
②行動を習慣化	.17 *	.09	.12	.17 *	-.06
③教育は集団のため	.22 **	.05	.15 †	.02	-.05
④人間の本質は悪	-.08	-.05	.03	.09	-.01
⑤しつけや訓練が必要	.16 *	.09	.09	.00	.08
⑥道徳は外から与えられる	-.01	.18 *	.07	.21 **	.12
⑦道徳は社会によって異なる	.04	.11	.11	.06	.07
⑧成熟は美徳を身につけること	.17 *	-.01	.01	.06	-.07

注）**p<.01，*p<.05，†p<.10（両側検定）

Table 7　男性（n=66）における道徳教育観と諸尺度との相関係数

	A	D	M	P	N
①価値や美徳を伝えるべき	.17	.19	.06	.03	.27 *
②行動を習慣化	.30 *	.28 *	.19	.21 †	.15
③教育は集団のため	.27 *	.07	.08	.04	.02
④人間の本質は悪	-.37 **	-.12	-.16	.03	-.10
⑤しつけや訓練が必要	.00	.07	.08	-.09	.13
⑥道徳は外から与えられる	-.12	.06	-.05	.14	.04
⑦道徳は社会によって異なる	-.12	.08	.09	.01	.06
⑧成熟は美徳を身につけること	.11	-.02	.00	.01	-.05

注）**p<.01，*p<.05，†p<.10（両側検定）

Table 8　女性（n=104）における道徳教育観と諸尺度との相関係数

	A	D	M	P	N
①価値や美徳を伝えるべき	.28 **	.13	.17 †	-.07	.17 †
②行動を習慣化	.08	.00	.09	.15	-.20
③教育は集団のため	.18 †	.05	.20 *	.02	-.10
④人間の本質は悪	.15	.09	.10	.10	.01
⑤しつけや訓練が必要	.25 *	.14	.14	.10	.08
⑥道徳は外から与えられる	.10	.16	.06	.20 *	.11
⑦道徳は社会によって異なる	.15	.06	.05	.05	.03
⑧成熟は美徳を身につけること	.20 *	.04	.05	.12	-.06

注）**p<.01，*p<.05，†p<.10（両側検定）

Ⅳ．まとめ

本研究の目的は，教育学部生の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及び Dark Triad との関連について，性差を含めて探索的に検討を行うことであった。本研究から確認されたことは，大きくわけて以下の３点である。

第１に，教育学部生においては，権威主義的伝統主義傾向の強い者ほど，教育は集団のためであると認識し，道徳教育において価値や美徳を伝えることや行動を習慣化することを重視する傾向にあった（Table 2，6）。また，権威主義的伝統主義は，子どもが大きくなってからもしつけや訓練が必要という認識や，道徳的な成熟は美徳を身につけることという認識とも関連することも示唆された（Table 6）

第２に，教育学部生においては，Dark Triad 傾向の強い者ほど，道徳は外から与えられるものであり，価値や美徳を伝えるべきと認識する傾向にあった（Table 6）。また，サイコパシー傾向と行動の習慣化の重視との関連，さらには，マキャベリアニズムと教育は集団のためという認識や道徳教育では価値や美徳を伝えるべきという認識との関連も示唆された（Table 6）。ただし，Dark Triad に関しては，権威主義的伝統主義に比して，道徳教育観との関連は明確には示されなかったといえよう。

第３に，教育学部生の道徳教育観には性差が認められ，女性に比べて男性は，人間の本質は悪であり，道徳は外から与えられるものであり，道徳は社会によって異なると認識するとともに，道徳教育においては価値や美徳を伝えることを重視する傾向にあった（Table 2）。なお，本研究においても，先行研究（田村他，2015）と同様に Dark Triad の特徴は女性よりも男性に顕著であることが確認されたが（Table 4），このことが男性と女性における道徳教育観の相違と関連している可能性も示唆される。さらに，権威主義的伝統主義と Dark Triad との関連について，女性では総合得

点と３つの下位尺度得点との間に有意な正の相関が認められた一方で，男性では自己愛傾向との間に有意な正の相関が認められたのみであった（Table５）ことなどを踏まえると，道徳教育観とパーソナリティとの関連については，今後も性差を十分に考慮した上で研究を蓄積していく必要があるものと考えられる。

引用文献

越中 康治（2012）．教育学部生の道徳教育観と権威主義的伝統主義との関連　宮城教育大学紀要 , *47*, 307-313.

Graham, J., Haidt, J., & Rimm-Kaufman, S. E.（2008）．Ideology and intuition in moral education. *European Journal of Developmental Science, 2*, 269-286.

河村 悠太・石黒 翔・西端 和志・星野 春香・山下 環奈・渡邊 智也・楠見 孝（2017）．日本語版道徳アイデンティティ尺度作成と妥当性の検討　日本心理学会第81回大会 Retrieved from https://www.myschedule.jp/jpa2017/img/figure/10403.pdf（2018年９月28日）

木川 智美（2016）．他者を操作することの心理学的研究の動向と展望　心理学評論 , *59*, 387–396.

吉川　徹（1998）．階層・教育と社会意識の形成－社会意識論の磁界－　ミネルヴァ書房

中村 敏健・平石 界・小田 亮・齋藤 慈子・坂口 菊恵・五百部 裕・清成 透子・武田 美亜・長谷川 寿一（2012）．マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討　パーソナリティ研究 , *20*, 233-235.

敷島 千鶴・安藤 寿康・山形 伸二・尾崎 幸謙・高橋 雄介・野中 浩一（2008）．権威主義的伝統主義の家族内伝達―遺伝か文化伝達か―　理論と方法 , *23*, 105-126.

下司 忠大・小塩 真司（2017）．日本語版 Short Dark Triad（SD3-J）の作成　パーソナリティ研究 , *26*, 12–22.

首藤 敏元（2009）．自律的な社会性の発達　教育心理学年報 , *48*, 75-84.

田村 紋女・小塩 真司・田中 圭介・増井 啓太・ジョナソン ピーターカール（2015）．日本語版 Dark Triad Dirty Dozen（DTDD-J）作成の試み　パーソナリティ研究 , *24* , 26-37.

付　記

本研究は，日本パーソナリティ心理学会第25回大会（2016年）において発表した内容を加筆・修正したものである。本研究は，科研費（15K17263）の助成を受けた。

（平成30年９月28日受理）